

令和3年 第18回帯広市教育委員会会議録

1. 令和3年11月9日 火曜日 16時 ～ 17時

帯広市教育委員会会議を市役所 第6会議室に招集する。

2. 本日の出席者

教 育 長	池 原 佳 一
教 育 委 員	田 中 厚 一
教 育 委 員	藤 澤 郁 美
教 育 委 員	佐々木 しゅり
教 育 委 員	柳 川 久

3. 本日の議事日程

日程第1 会議録署名委員の指名について

日程第2 議案第35号 令和3年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び
評価について【非公開】

その他

池原教育長

ただ今から、令和3年第18回帯広市教育委員会会議を開会いたします。

出席委員は全員であります。

会議は成立しております。

ここで諸般の報告をいたします。

(佐藤企画総務課長 報告)

日程第1、会議録署名委員の指名を行います。

会議録署名委員は藤澤委員及び佐々木委員を指名いたします。

ここで会議の進め方についてお諮りいたします。

日程第2の案件については、帯広市教育委員会会議規則第16条第1項第3号により非公開にしたいと存じます。

これにご異議ありませんか。

各委員
池原教育長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのとおり取り扱いたします。

これより会議を非公開といたします。

日程第2、議案第35号、令和3年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

広瀬 部長

議案第35号、令和3年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価についてご説明いたします。本案は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づいて報告書を作成し、議会への報告及び公表を行おうとするものでございます。

議案書5ページをお開き下さい。今年度の本報告書は、新たに策定いたしました教育基本計画の体系に従って作成する初年度のものでございます。昨年度までの本報告書との大きな変更点は、教育委員会の概要を巻頭に持ってきたこと、新たに策定した教育基本計画の構成に合わせまして、報告のメインとなる「点検及び評価の結果」の基本単位の数を昨年度までの11から23としたこと、成果指標における目標値を計画の最終年度のみ設定したこととあります。

点検・評価の方法につきましては、帯広市教育基本計画の個別施策ごとに、取り組みの成果と課題及び今後の方向性を整理しております。点検・評価の結果につきましては、8ページから53ページにかけて、教育基本計画の体系ごとに整理しております。54ページから55ページにかけての学識経験者の意見につきましては、帯広北高等学校理事の奥野氏と元帯広市教育委員の市之川氏に執筆いただきました。56ページ以降は、参考資料として、教育行政執行方針抜粋、教育費における予算決算、主な取り組み一覧、成果指標の推移を記載しております。本報告書につきましては、本日の会議におけるご審議の後、11月12日の経済文教委員会に報告し、その後、帯広市ホームページ等で、市民に公表することとしております。説明は以

池原教育長
藤澤 委員

上です。

これから質疑に入ります。

教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について読ませていただき、感想と質問をさせていただきたいと思います。まず、コロナ禍の大変な状況の中で取り組まれたことは、大変ご苦勞なことで、関係各位に深く敬意を表します。コロナ禍のため、目標に達しない項目が見られましたが、概ね適切な点検評価と判断いたしました。今までに想定ができないコロナウイルス感染症の影響で休校、教育関連施設の休園、休館で行動範囲が狭まり、物理的に実施ができなかったこともあり、今後もまだ、このような状態が続くと想定され、さらなるICTの活用など、様々な工夫をし、今後も取り組んでいただきたいという感想を持ちました。

それでは、4点ほど質問をさせていただきます。まず、1点目、個別施策1－3、情報教育の推進の中で、授業でコンピュータなどのICTを活用したいと思う子どもの割合について、基準値が小学校87.4%、中学校73.8%と違いがあるのですが、なぜ、小学校と中学校の基準値に差があるのかということ。

2点目、個別施策2－8、健やかな体の育成の朝食を毎日食べている子どもの割合では、小学校で基準値を下回っていて、中学校では基準値を上回っていることについて、小学校低学年では自分で食事の用意ができないことが原因ではないかと推測しましたが、何かあれば教えていただきたいと思います。3点目、個別施策3－10、地域との連携・協働の推進で、コミュニティ・スクールを新たに4校導入したわけですが、コロナ禍で当初の予定どおりには進まなかったのではないかと思われますが、どのように工夫して進めていったのか教えていただければと思います。

最後に、個別施策4－13、誰もが安心して学べる教育の推進で、「いじめは絶対に許されない」と考える児童生徒の割合は、小・中学校ともに基準値を上回り、道徳などの学習の成果だと思われませんが、実際のいじめの件数は把握されていますか。それから、不登校の件数について、コロナ禍の休校後に増えたという現象は見られたのか教えていただきたいと思います。

村木 課長

ご質問中のコミュニティ・スクールについてお答えいたします。昨年度のコミュニティ・スクールの導入校は、4校2協議会ということで、本来であれば15校くらいの予定でしたが、コロナ禍のため、農村部の4校2協議会で進めてまいりました。市街地の学校につきましては、説明会等を実施するにあたり、多くの保護者の皆さんを集めるという観点から見送ったところでございます。農村部につきましては、人数も少ないということで、保護者や地域の方に丁寧な説明をしながら進めてきたところでございます。

池原教育長 工夫した点についてはどうですか。数としては4校でしたけれど、その他の学校で、最終的までいかなくても、工夫した活動や取り組みはありましたか。

村木 課長 他の市街地の学校につきましても、準備の方は進めさせていただいております。今年の2月、3月までに、コミュニティ・スクールの前身であります学校評議員会で、地域の方に説明するなど、学校で工夫しながら導入の準備を進めてきた結果、16校15協議会で導入することにつながってきたところでございます。

山下 室長 個別施策1-3、授業でコンピュータなどのICTを活用したいと思う子どもの割合の基準値の違いについてですけれど、令和元年度の文部科学省の全国学力・学習状況調査の質問紙からのアンケート結果でございます。R2につながる結果についても、小学校では下がって、中学校では上がっている状況ですけれど、具体的な数値での資料しかなく、原因等の分析は、まだできておりませんので、申し上げることができない状況です。同じく個別施策2-8、朝食の関係につきましても、アンケートの集計結果ですので、違いについて確認できれば調べてみたいと考えております。

池原教育長 次回の教育委員会会議で状況について、報告できるということでもよろしいですか。

山下 室長 次回の教育委員会会議の際に、どこまで分析できるかわかりませんが、ご報告させていただきたいと思っております。

高橋 課長 ご質問中、令和2年度のいじめの認知件数と不登校の子ども数についてお答えいたします。いじめの認知件数につきましては、小学校58件、中学校8件、計66件となっております。不登校につきましては、小学生96名、中学生136名、計232名となっております。また、不登校の数がコロナ禍以前と比べて、増加したかということにつきましては、令和元年度と比較して増加傾向にございます。令和2年度につきましては、不登校の認知件数と新型コロナウイルス感染症で休んだ子どもの数も加味されており、不登校の数は58名程度増えてございますが、そのうち新型コロナウイルス感染症が不安だという日数が1日でも入っているお子さんは48件ほどとなっております。新型コロナウイルス感染症の与えた影響は大きかったと考えております。

藤澤 委員 いじめの件数は前年度と比較してどうだったのでしょうか。

高橋 課長 令和元年度と2年度のいじめの認知件数を比較すると、小学生は令和元年度142件に対して、令和2年度は58件、84件の減、中学生は令和元年度10件、令和2年度8件、2件の減となっております。

藤澤 委員 ありがとうございます。

佐々木委員 個別施策1-2、職業観の育成の中で、人の役に立つ人間になり

たいと思う子どもの割合と書いてありますけれど、質問の文章は、どのようなものだったのか教えてください。それと感想になりますけれど、個別施策2-7、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う子どもの割合が小学校では少し、中学校では8ポイント以上上がっているのは、見るべき成果ではないかと思いました。いろいろな学校の授業を見るにつけ、子どもたちが主体的に課題を出し合って話し合うということに段々慣れてきているという印象を受けました。低学年の頃から、その形の話し合いに慣れ親しんできた子どもたちが高学年になり、力を発揮するようになってきていると思います。

個別施策2-9、授業の内容がよくわかると思う子どもの割合について、今、主体的に課題を出し合って話し合う成果が出ていると思っている印象と反するのですが、特に中学校では3割近くの子どもたちが授業の内容がよくわからないと思っている。3割近くが取り残されているか、取り残されかけているという状況に、かなり危機感を覚えています。25ページにあるように、教員の指導力の向上という課題も、もちろんあるのですが、どんなに教員の指導力が高くても、30~40人集めた教室で、一斉に向けて話す授業スタイルでは、取りこぼしができてしまうと思います。もちろん指導力の向上も必要ですが、個別指導、あるいは学習の習熟度に合わせた授業をもっときめ細やかにしていく方が大事なのではないかと思います。

山下 室長

まず、個別施策1-2の指標の考え方ですけれども、先ほどもお話ししました全国学力・学習状況調査の生徒への質問紙の項目の1つになっております。子どもたちが職業観の前提となります意識を持つことの確認ということで、職業への興味・関心、働くことへの理解・促進につながるものということで、指標として計画策定してきた経過がございます。質問の文章につきましては、「人の役に立つ人間になりたいと思う。」ということで、同じ表現となっております。

佐々木委員

人の役に立ちたいと思う子どもがたくさんいることは、喜ばしいことですけれども、キャリア教育はもちろん重要で、子どもたちがなりたい職業に就いて、その仕事に邁進して、結果的に人の役に立つことになれば、本当に素晴らしいことです。小学生、中学生の段階で、本当に大事なことは、子どもたちが人の役に立ちたいと考えているかというより、キャリア教育の面でもそうですけれど、今、やりたいことがはっきりしていて、そのために考えたり、めざしたり、努力していることがあるかどうかの方が大事ではないかと思いました。この項目は、文部科学省が作ったものなので、ここで言っても、何の意味もないかもしれませんが、大事なところはもう少し違うところにあると思ったので、そういった質問になりました。それから、

義務教育なので、子どもの学ぶ権利のために提供しているものなので、他人の役に立つ人間を育成するためにやっているわけではないと思います。人の役に立つことが最も素晴らしいという教育は問題ではないかと思います。もちろん大事なことですけれど、子どもたちが自己肯定感を高めるために、人の役に立つということが大きな割合を占めるべきではないと思っています。

田中 委員

何点か質問と感想をお話させていただきたいと思います。今、各委員の皆さんからお話があり、重複する部分があるかもしれませんが、お許しください。1点目、10ページ、佐々木委員からも質問のあった、人の役に立つ人間になりたいと思う子どもの割合というところで、質問の仕方によって、これだけのパーセンテージが出てきたと思いますが、特に小学校は私が想像していたより高い数値が出ている印象を持ちました。小学校1年生から6年生までで93.6%の子どもたちは、人の役に立つ人間になりたいと思っているということ。どういう理由で、子どもたちはこのような思いにたどり着いているのか、ぜひ教えていただきたいと思います。

2点目は、12ページ、ICTの関係で、これは逆の意味で意外だったのですが、小学生の子どもたちが令和元年の段階よりも、令和2年でポイントを下げているということ。コロナ禍の中でタブレットなどに触る機会が増えているにも拘わらず、ICT活用したいと思う子どもの割合が減っていることを、どう受け止められているのかお伺いしたいと思います。

3点目、24ページ、授業の内容の関係で、小学校も中学校も、先生方が授業を行っていて、小学校は17%くらい、中学校では3割近い子どもたちが理解していないということ。先ほどもお話がありましたが、30~40人のクラスでは、8人から10人くらいはわかっていないということです。私もそうですし、柳川委員もそうだと思いますが、授業をやっていたら、児童、生徒が理解していないことは絶対わかるはずですが、そもそも本人が一番まずいと思っているはずですが。それに対して、個別に相談ができるとか、データが出て本人が何もやっていなければ、いかがなものかと思います。何か具体的に対応されているのかどうか。簡単に言えば、教員が授業をやって、10人がわかっていないことで、終わらせているのかどうかお聞きしたいと思います。そうならないことを期待したいと思います。

28ページ、これも意外でしたが、家の人と学校での出来事について話をする子どもの割合が小学校では、令和2年で下がっていること。コロナ禍の状況で、家庭での生活が増えている中、子どもと話をする割合が減っているのはどういうことなのでしょうか。推測で

も構わないので教えていただきたいと思います。

32 ページ、藤澤委員からもお話がありました、いじめについて、帯広の子どもたちのいじめに対する問題意識は非常に高い水準だと理解していますので、安心した数字だと思いました。一人をターゲットにしたいじめは、ほぼ起きていないということはわかります。ただ、問題は自分たちがいじめと認識していないが、受けた側がいじめだと思うこと、ハラスメントと同じ考え方ですけど、それは当然あるだろうと思います。要するに、害を加えた側の意識の問題です。具体的な事例が起きた場合、どのような対応をされているのか。数値が高いが故に、もっとしっかりした指導ができるのではないかと思いますので、お伺いしたいと思います。

36 ページ、生涯学習関係で、講座の満足度は令和元年度より令和2年度は評価が高くなっています。ほぼオンライン講座だと想像しますが、オンラインだと、肌触りが感じられなかったとか、機械の調子が良くないとか、聞いていてわからなかったとか、評価が下がるといったものですか、評価が上がっていることをどうお考えなのかお伺いしたいと思います。

最後に 44 ページ、市ホームページの文化資源紹介ページの年間総アクセス数が 2,161 から 1,728 まで下がった理由は、感染症の流行に伴う市民の外出自粛等により、文化財・史跡等への訪問機会の減少が影響したということ。今回、読んで思ったのは、全てがコロナ禍の影響だと断じてはいけないと思いました。もちろんコロナ禍によるものが多いと思いますけれど。例えば、訪問ができなかったから、ホームページのアクセス数が減になったと、一直線に言えるものなのでしょうか。ホームページの見やすさ、アクセスのしやすさ、また、よく言われることですが、広報の仕方について、もっと判断しなければならないと思います。この件だけではなく、全てコロナの影響にすると、間違えてしまうのではないかと思います。

山下 室長

1 点目の職業観の育成の数値につきましては、全国学力・学習状況調査の質問紙は、小学校6年生と中学校3年生に限定したもののため、小学校についても、中学校並みに高い数字になっていると思われる。

高橋 課長

12 ページの情報教育の推進に係わり、小学生がコンピュータなどのICTを活用したいと思う割合が低いことにつきましては、令和2年度の全国学力・学習状況調査の全国的な集計が行われないことで、本市におきましては、一斉の臨時休業明けに取らせていただいたアンケートの結果を独自に集計した結果です。推測も入りますが、休業明けということで、授業の進み具合、その後、夏休み中にも登校日を設け、学習するということがございましたので、小学生がコ

ンピュータを使用した楽しい授業の機会が減っていることが回答に影響したと推察されます。現在、タブレット端末については、ほぼ毎日様々な形で活用されている現状ですので、今年度の結果については、恐らく令和2年度より高くなっていると推察しております。

3点目、授業の内容がよくわかると思う子どもの割合のご質問についてお答えします。こちら、小学校6年生、中学校3年生の回答となります。各学校においては、毎時間というわけにはいかないのですが、子どもたちにも、授業が終わった時に、今日の授業の自己評価を取らせていただいております。その結果を直後の授業改善に生かす取り組みもしております。また、個別の学習指導の充実についても、令和2年度は放課後の学習支援が十分にできない現状でしたけれど、当然、教員は子どもたちがわかる授業、楽しい授業をめざしておりますので、この数値が少しでも上がるよう日々の授業改善に取り組んでおります。

次に家の人と学校での出来事について話をする子どもの割合で、小学生の数値が低いことにつきましては、こちら、臨時休業明けに取ったアンケート結果ということが、少し影響していると拝察しております。小学生ですので、学校での出来事という質問に対し、2ヶ月ほど学校が休みで話題が減っていたことも考えられます。今年度の結果がどのような形になるか、タブレット端末も含めて、家庭と連携した子どもの育みは、これまで以上に大切になりますので、改善されるよう引き続き努力しているところでございます。

次に「いじめは絶対に許されない」と考える児童生徒の割合については、どの子が許されないと言い切っていないのか、各学校では大変重要に受け止めております。個別の教育相談も含めて、日常生活の実態把握、実際にいじめる側に回らないよう、未然防止の1つの取組の参考にさせていただいております。いじめというものは、お話にもありましたように、いじめられた側の受け止め方、被害に遭っている、嫌な思いをしていると訴える子どもに寄り添う指導が大変大切です。これからもこの数値が100%になるように、また、「誰かに相談しますか」という質問もありましたが、「誰にも相談しない」と答える子どもが少なからずおりました。いじめの問題につきましては、引き続き、万全な対応をしてまいりたいと考えております。

藤原 課長

36ページの講座の満足度が上がった原因につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、講座の開催回数が大幅に減少したところではございますが、感染症対策により初めてのオンライン開催と希望される方につきましては、生涯学習文化課で行っている市民大学講座であれば、対面の受講も併せて行えるように工夫したところではございます。これまで時間等で参加できなかった方も、オンライン配信で参加しやすい環境になったこと、対面希望の方は対

面で受講ができ、市民ニーズを踏まえた講座テーマの設定など、数は少なかったのですが、市民のニーズを捉えた学習機会の提供を行うことにより、講座の満足度が上がったと考えております。

山原 館長

市のホームページの文化資源紹介ページの年間アクセス数が減っている理由につきまして、コロナの影響だけではないのではというお話だったと思いますけれど、まず、ホームページに関しては、前年度と大きな変更点はありません。史跡標示板が外にありますので、興味関心のある方は市のホームページで見てから、現地に行く行動をされるということで、そうした機会が減っていると推察したわけでございます。田中委員のお話の他に原因があるかもしれないということにつきましては、今年度、来年度以降の比較で検討させていただきたいと思っております。

池原教育長

10 ページの人の役に立つ人間になりたいと思う子どもの割合について、私の感想ですけれど、先週まで小学校6校、中学校2校の児童会・生徒会の役員と意見交換をしてきました。その時にも、人の役に立ちたいという子どもが結構いて、理由を聞くと、コロナ禍で医療従事者の方々が一生懸命やっている姿に感じるものがあったことと、最近の医療ドラマを見て、自分も医者や看護師、薬剤師になりたいと話す子どももいて、それも影響していると感じましたし、キャリア教育が小学校から、かなり充実してきたことも感じました。

服部 室長

成果指標の達成状況の中で、感染症の影響という理由が多いうちというお話をいただきました。今回、点検評価をしていく中で、成果指標につきましては、小学校、中学校に分かれている部分も含めると、37項目でございます。評価の1年目ではありますけれど、当初設定した基準値を上回っているものは、14項目に過ぎない状況もございます。また、コロナウイルス感染症が落ち着く中で、議会からも、どういう影響があったか、検証していかなければならないというご指摘も受けております。今、いろいろなお話がございましたけれど、明確にお答えできない部分につきましては、今後、様々な検証をしなければならぬと考えておりますし、コロナウイルス感染症の影響として考えられるものについては、土台が変わっている部分もあり、単純に数字に影響しているため、単純比較ができなくなっている部分もあります。ベースに戻るにも1年、2年かかるものと考えております。当初良かれと思っていた基準値が機能するには、しばらくかかると思いますし、それも含めて、改めて検証させていただきたいと考えてございます。

田中 委員

ありがとうございました。全部がコロナウイルス感染症のせいにして、数値が落ちたと申し上げているわけではなくて、特に学校や生涯学習関係もコロナウイルス感染症の影響で、めちゃくちゃにさ

れたのは間違いのない事実ですけれども、教育長が先ほど、いみじくもおっしゃった、子どもたちの話を聞いた時に、人の役に立ちたいという言葉は、新型コロナウイルス感染症があったがための成長というのものもあるわけです。数字上では出てこないかもしれませんが、プラスとマイナスを両方見る形の評価を何らかの形でやらないと、数年後、新型コロナウイルス感染症で全部がだめだったという結果では、つまらない話になると思います、申し上げたということをご理解いただきたいと思います。

柳川 委員

69 ページから 73 ページの資料を読んで、2 つほどお聞きします。各個別の施策について、それぞれ基準値と目標値を作って年度ごとに推移を示しており、わかりやすくありがたいと思います。ただ、今年度のようにアクシデンタルな年の場合、まだ 1 年目ですから、特に言う必要はないのですけれども、今後、目標値を変える必要が出てくるのかどうか、あるいは、変えられるのかどうかは 1 つです。もう 1 つ、特に学校教育で、人材育成の観点から考えると、年度推移ではなくて、学年が推移していくたびに増えてほしいもの、減ってほしいものがあると思うので、そういうものを数値化していただくと、年度が上がっていき身に付いてきたものが見えてくる部分もあると思いました。

それから、最近、私たちは報告書とか申請をする際に、SDGs を使います。この中に一言も出ていなくて、中身を見ると、それを意識しているものがたくさんあるので、今後、出てきてもいいのではという気がしました。これは感想です。

服部 室長

指標の中身について、このベースになっております教育基本計画におきましては、必要に応じて随時見直していこうという形になっております。前回の教育基本計画につきましては、5 年目に見直しさせていただいた経過もございます。今回、点検評価は 1 回目でございますので、推移を見ながら、見直しの必要があると考えており、新型コロナウイルス感染症の検証も含めて、今後検討していく必要があると考えております。

山下 室長

当初の指標の考え方は、可能な限り作業の低減を考えており、学年ごとのアンケートをすることになると、新たに仕組み等を構築した上で毎年度継続することになるかと思っております。毎年継続して行っているものが、先ほどの学力・学習状況調査の児童生徒への質問紙ということで、そちらの指標を最大限使い、効果的な評価ができるのであれば、そちらを使用することを前提条件として整理し、こちらの指標としました。その結果、小学校 6 年生と中学校 3 年生のみのアンケートを使ったものとなっています。これまでの議論の経過の中では、新たに解釈のしやすい指標を設けてもいいのではという話もありましたが、総合的に判断して、質問紙を活用することになっ

柳川 委員
池原教育長

た経過がございます。

ありがとうございます。

他になれば、質疑を終結します。

お諮りいたします。

議案第 35 号、令和 3 年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価については、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

各 委 員
池原教育長

異議なし。

ご異議なしと認め、議案第 35 号は決定されました。

事務局から、その他説明事項はありますか。

事 務 局
池原教育長

ございません。

事務局からは特にはないようですが、各委員から他にご意見、ご質問等があれば、お受けいたします。

各 委 員
池原教育長

ありません。

別になれば、本日予定されておりました案件はすべて終わりました。

これをもちまして、令和 3 年第 18 回帯広市教育委員会会議を閉会いたします。